

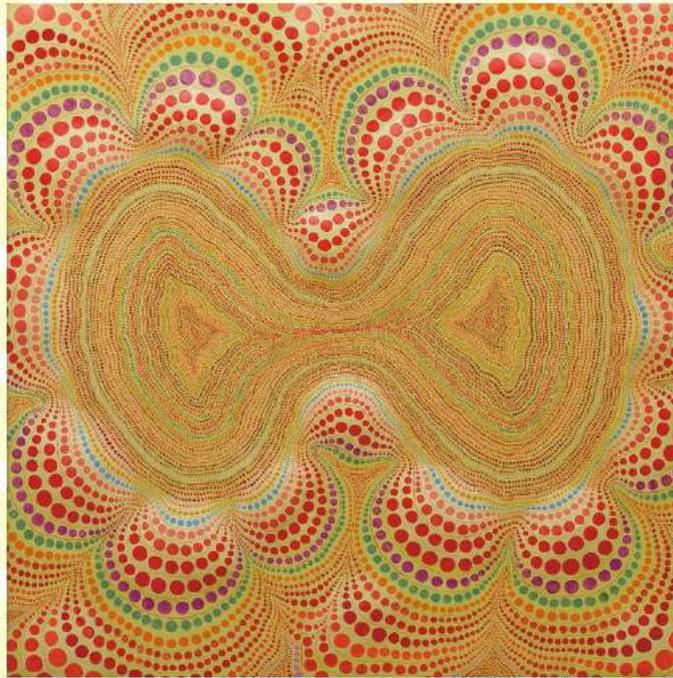


芦屋市立美術博物館

コレクション展

こどもとおとな

—これ、なににみえる？—



©阿部隆 75歳 61-12-1001年 油彩、紙に、阿部隆 芦屋市立美術館所蔵

PRESS RELEASE

2019・May

2019年7月13日(土) …… 9月23日(月・祝)

開館時間=10:00-17:00(入館は16:30まで) / 休館日=月曜日(ただし祝日は開館、翌火曜日休館)

観覧料=一般500(400)円、大高生300(240)円 **中学生以下無料**

※同時開催「芦屋の歴史と文化財」展の観覧料も含む ※()内は20名以上の団体料金 ※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護者の方は各当日料金の半額になります ※観覧無料の日:8月11日(日・祝)、9月1日(日)
主催=芦屋市立美術博物館 後援=兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、NHK神戸放送局、ラジオ関西
※同時開催=「芦屋の歴史と文化財」展 ※会期中の毎週水曜日はトークフリーデー
芦屋市立美術博物館 〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25 TEL:0797-38-5432 ashiya-museum.jp

Children and Adults : What Does This Look Like?

展覧会名	「コレクション展 こども と おとな —これ、なににみえる？」
会 期	2019年7月13日(土)－9月23日(月・祝)
開館時間	午前10時－午後5時(入館は午後4時30分まで)
会 場	芦屋市立美術博物館 エントランスホール、第1展示室、第2展示室
休 館 日	会期中の月曜日(ただし7/15, 8/12, 9/16,23は開館、7/16, 8/13, 9/17は休館)
観 覧 料	一般500(400)円、大高生300(240)円、中学生以下無料 □ 同時開催「芦屋の歴史と文化財」展の観覧料も含む ※()内は20名以上の団体料金 ※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護者の方は各当日料金の半額になります。 ※観覧無料の日:8月11日(日・祝)、9月1日(日) ◇会期中の毎週水曜日はトークフリーデー(会話を楽しむ美術の時間)
主 催	芦屋市立美術博物館
後 援	兵庫県、兵庫県教育委員会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、NHK神戸放送局、ラジオ関西

開催趣旨

▼こども も おとなも「作品をみる」ことを楽しみましょう▼

美術作品には、ちょっと変わった方法や素材で作られた作品、身近なモチーフから想像で描いたものまで独創的に表現した作品があります。それをみて何を感じるでしょうか。

きれい、おもしろい、ふしぎ、すき、きらい、よくわからない…。

心に起こる様々な変化は、何かを感じ取った証です。

本展は、当館所蔵の近現代の絵画・立体作品を、なにで(素材)・どうやって(技法)・どんなふう(表現)といったテーマを鑑賞のポイントとし、親しみやすい解説で紹介します。

「なにで」「どうやって」「どんなふう」を知ると、心で感じ取った「何か」を見つけるヒントになることでしょう。

そして、作者の思いを想像したり、お気に入りの作品が見つかったら、

美術との出会いがもっと楽しくなるはずですよ。

作品から何を感じたか…こどもも、おとなも、思ったことを伝え合ってみませんか。

本展では、鑑賞後の意見交換にご活用いただけるよう、感想コーナーを設けます。

ぜひ、この夏は美術博物館へ遊びに来てください。

展覧会
みどころ

▼楽しくアートに触れていただくため、3つのツールを用意しています▼

1. ワークシート

夏休みの自由研究にもご活用いただける、鑑賞の手掛かりとなるワークシートを配布します。作品を観察して気づいたことや、想像したことを書き込み鑑賞を深めてください。お子様だけでなく、一般の方もご利用いただけます。

2. こども向け解説キャプション

専門用語は使わず、お子様にも分かりやすい言葉で鑑賞ポイントを解説します。また、お子様の目線の高さにキャプションを設置します。事前知識なしでご来館いただいた方も、作品により親しんでいただけることでしょう。

3. 感想コーナー

展覧会鑑賞後に感じたこと、気に入った作品といった感想をカードに書き込んでいただけるコーナーを設けます。ご来館の記念や、意見交換の場にご活用ください。

▼会期中の毎週水曜日は「トークフリーデー」（会話を楽しむ美術の時間）▼

昨年度ご好評いただいた「トークフリーデー」を本展でも実施いたします。ご家族やお友だちと自由におしゃべりを楽しみながらご鑑賞いただけます。お気に入りの作品を見つけて会話を楽しんでいただくという取り組みです。

小さなお子様とご一緒の方もリラックスして、ぜひご来館ください。

展覧会
構成

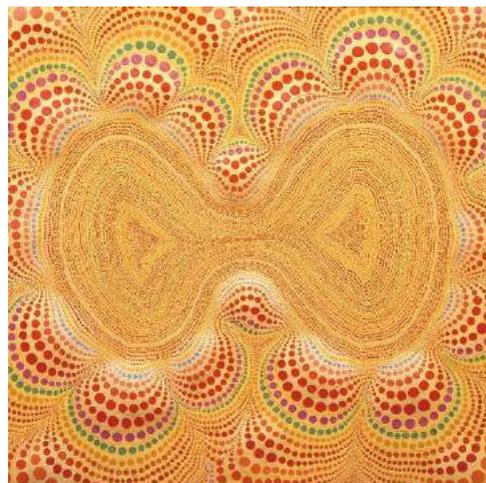
第一章 なにで（素材）

でこぼこ、きらきら、つるつる、ぐにゃぐにゃ。

なにでできてる？

第一章では、作品に使用された**材料(素材)**について考えます。

胡粉と**ビニール接着剤(ボンド)**を練り上げてレリーフ状の下地を作り出したおのだみのる**小野田實**や、**半乾き状態のビニール接着剤(ボンド)**をふくらませ独特のかたちを生み出したまつたにたけさだ**松谷武判**といった具体美術協会の作家や、**ドロドロに溶かした新聞紙**をベースにした植物の組織を思わせるなかがわよしのぶ**中川佳宣**の作品など、いろいろな素材が組み合わされた作品をご紹介します。



1



2



3

第二章 どうやって（技法）

ふとい線、ほそい線、いろんなかたち。

どうやったらできる？

第二章では、作品の**制作プロセス(技法)**

について考えます。**自らの足**を絵筆の代わりに使い躍動感あふれる絵画を描いたしらがかずお**白髪一雄**や、新聞紙やダンボールなどを陶に**シルクスクリーン**で形を写した陶芸作品を生み出したみしまきみよ**三島喜美代**、印画紙の上に直接物を置き直接**光をあてて**写真作品を制作したえいきゅう**瑛九**といった、特徴的な方法で制作された作品をご紹介します。大胆なものから緻密なものまで、それぞれの作品が持つ痕跡をじっくり観察してみてください。



4



5

- 1 | 小野田實《作品 64-H》1964年
油彩、ボンド、樹脂、板
- 2 | 松谷武判《作品・62》1962年
樹脂系接着剤、合成樹脂系絵具、布
- 3 | 中川佳宣《果実あつめ》1990年
ミクストメディア
- 4 | 三島喜美代《Package-88-s》1988年 陶
- 5 | 瑛九《散歩(瑛九フォトデッサン集『真昼の夢』①)》
1951年 ゼラチンシルバー・プリント

第三章 **どんなふうにも（表現）**

みたことあるもの、みたことないもの。

どんなふうにもえがく？

第三章では、対象の表し方(表現)について考えます。対象を**独特な遠近感**かみやまじろうで描いた**上山二郎**や、**ユーモラスな形**と**明るい色彩**で構成された作品を生み出した**元永定正**、**デフォルメした人体**うえきしげるの木彫シリーズを多く手掛けた**植木茂**。実際に存在するものや風景から想像の世界まで、作家たちが表したものと、表現によって受ける印象のちがいを探ってみましょう。



6



7

6 | 元永定正《あかのうえ》1986年
シルクスクリーン、紙7 | 上山二郎《静物(吸収紙)》1923年
油彩、布

全て芦屋市立美術博物館蔵
展示点数 約60点

関連
イベント

1. 講演会「みる・考える・話す・聴く—対話型鑑賞で得られる「生きる力」—」

日時:7月20日(土) 14:00—16:00 / 会場:講義室 / 定員:80名

講師:福 のり子 氏(アート・コミュニケーション研究センター 所長、京都造形芸術大学芸術学部 教授)

2. 親子で楽しむ おはなし付きコンサート

▼おはなしやこどもの描いたイラストと共にクラシックの名曲をご鑑賞ください。

日時:7月21日(日) 14:00—15:30(予定) / 会場:1Fホール / 定員:100名

曲名:サン＝サーンス作曲「動物の謝肉祭」

★1、2 聴講・鑑賞無料(※高校生以上は要観覧券)、申込不要

3. 工場見学&絵の具づくり体験「絵の具工場を見に行こう！」

▼絵の具づくりの工程を見学したあとは、自分で手練りした絵具をお持ち帰りいただけます。

日時:8月6日(火) 12:45—16:30 / 会場:ホルペイン枚岡工場(東大阪市)

(※集合場所は近鉄瓢箪山駅を予定。詳細は当選ハガキにてご案内します)

定員:20名 10歳以上(※小学生は保護者同伴) / 材料費:500円(※交通費はご負担ください)

申込方法:往復はがきにてお申込みください。

氏名・住所・年齢(こどものみ)・電話番号・参加人数 を明記のうえ下記までお送りください。

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25 芦屋市立美術博物館 工場見学イベント宛

※7月23日(火)必着 ※応募者多数の場合は抽選

4. 「小学館 おはなし玉手箱」～声優さんによる音と映像の楽しいよみきかせ～

日時:8月11日(日・祝) / 1回目 11:00-11:40 / 2回目 14:00-14:40

会場:講義室 / 定員:各回親子40組 1～6歳

参加無料(8月11日は観覧無料の日)、**※7月28日(日)締切**

5. ワークショップ①「いろいろな素材でBOXアートづくり」

▼箱の中に、いろいろな素材をつめこんで、自分だけの世界を作ってみましょう。

日時:8月25日(日) 13:30-16:00 / 会場:体験学習室

定員:20名 小学生以上 / 材料費:300円(※高校生以上は要観覧券)

※8月12日(月・振休)締切

6. ワークショップ②「キャンバス張り、教えます！」

▼木枠の組み立て～画布張りまでを額製作・修復専門の職人さんにレクチャーしていただきます。

日時:9月16日(月・祝) 14:00-16:00 / 会場:体験学習室 / 定員:15名 10歳以上

材料費:1,000円(※高校生以上は要観覧券) / 講師:里陽造氏(有限会社一風堂)

※8月27日(火)締切

★4～6 お電話にて氏名・電話番号・参加人数・参加時間(4のみ)をお伝えください。

※応募者多数の場合は抽選

7. ギャラリートーク

日時:7月28日(日)、8月18日(日)、9月1日(日) 14:00-約1時間

参加無料(※高校生以上は要観覧券)、申込不要。直接会場へお越しください。

教育普及 プログラム

【まなびはく2019】

美術家や学芸員と一緒に、美術の面白さ、楽しさ、難しさなどを発見するレクチャーやワークショップを開催します。

(1)「星の読書」7月15日(月・祝)

* astronavigation (藤本由紀夫氏(アーティスト)、大西正一氏(グラフィックデザイナー)、

鈴木大義氏(グラフィックデザイナー)、中山博喜氏(写真家)、守屋友樹氏(写真家))

(2)「美術館ってどんな場所?～美術館教育普及現場からのお話」8月17日(土)

清家三智氏(名古屋市美術館 学芸員)、遊免寛子氏(兵庫県立美術館 学芸員)、

本丸生野氏(姫路市立美術館 学芸員)

(3)「個と風景の「造形」」ワークショップ、パフォーマンス、トーク 9月7日(土)

高橋耕平氏(美術家)

※詳しくは当館HPが各イベントにあわせて発行するチラシをご覧ください。

お問い合わせ先 芦屋市立美術博物館 〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25

TEL:0797-23-2666(学芸直通)、0797-38-5432(代表) FAX:0797-38-5434

展覧会担当:吉谷栄子 / 教育普及事業担当:大槻晃実 / 画像貸出など広報について:総務課

コレクション展

こどもとおとな

2019年

7月13日 …… 9月23日

———これ、なににみえる？

Children and Adults : What Does This Look Like?

FAX連絡先

(0797) 38-5434

ご希望の写真番号に○をつけてご返送をお願いいたします。本展をご掲載いただける場合、読者・視聴者プレゼント用招待券(10組20名様まで)もご用意しておりますので、お気軽にご連絡ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・所蔵元
1	小野田寛《作品 64-H》1964年 油彩、ボンド、樹脂、板 芦屋市立美術博物館蔵
2	松谷武判《作品・62》1962年 樹脂系接着剤、合成樹脂系絵具、布 芦屋市立美術博物館蔵
3	中川佳宣《果実あつめ》1990年 ミクストメディア 芦屋市立美術博物館蔵
4	三島喜美代《Package-88-s》1988年 陶 芦屋市立美術博物館蔵
5	瑛九《散歩(瑛九フォトデッサン集『真昼の夢』①)》1951年 ゼラチンシルバー・プリント 芦屋市立美術博物館蔵
6	元永定正《あかのうえ》1986年 シルクスクリーン、紙 芦屋市立美術博物館蔵
7	上山二郎《静物(吸取紙)》1923年 油彩、布 芦屋市立美術博物館蔵

貴社名	
媒体名	(新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・その他)
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	TEL FAX
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着希望日	
招待券希望枚数	組 名分希望

- ・写真データの使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。
- ・本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを当館までお送りくださいますようお願い申し上げます。
- ・作品画像のトリミング及び、文字重ねなどの改変を行わないでください。
- ・本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合には、事前にご連絡ください。